

総合技術研究所電気応用研究室を訪ねて

東京電力㈱省エネルギーセンター
(前) 所長 大槻 實 雄

中部電力総合技術研究所電気応用研究室の輝かしい研究成果については、かねてから深い関心をよせていたが、このたび実際に研究室を拝見する機会をえ、その水準の高さに改めて驚くとともに、地域協調に関する研究開発の基本的なあり方について多くのことを学ぶことが出来深い感銘をうけた。

先づ第1に感心したことは他に頼らず自分で考え、自分で開発する自主性の強さである。

電気事業の研究開発はともすればメーカー、シンクタンクに頼りがちであるが、ここではメーカーに委託する前にまず自分の研究があり自分の考えが確立している。実験室のすべての設備、すべての部屋でこのことが強く感ぜられた。

手作りの実験設備、手作りのプログラム、手作りのシステム、が充満していてもまさに「ほんもの」の感じである。

農林・水産・省エネルギーの各分野毎に日常の研究活動のなかで、いつとはなしに、後継者が育成され、時代の変化に鮮かに適応している様子が、お話しの中でごく自然にうけられた。

第三は研究開発のテーマが地域の具体的なニーズにまことによく合致していることである。

各現業機関のサービス課を媒体に需要家のなまのニーズが研究室に伝えられ、開発成果が再び需要家にフィードバックされている状況はうらやましい限りである。

尾鷲三田火力発電所を拝見したおりに、たまたま地域からでた環境問題が話題になったが、火力の環境担当と研究室の方々の対話の中で新技術の採用を含めた種々の解決策についての的確にスピーディに討議されてゆく様子を見て、着実な永い蓄積の尊さにうたれたところである。

最後に最も感心したことは、研究室の方々の驚異的な視野の広さである。技術面のことだけでなく文化、歴史、自然、思想について、きわめて高度のものをさりげなく身につけておられて、名古屋から伊勢、尾鷲への旅がほんとに久しぶりに楽しく充実したものであった。

お教えいただいた数々のことを、ぜひとも東電の省エネルギー技術開発に生かしていきたいと考えている。
(昭和55年7月)

技術開発ニュース No. 7 (年4回発行)

昭和55年10月20日 印刷
昭和55年10月20日 発行

発行所 名古屋市緑区大高町字北関山20の1
中部電力株式会社総合技術研究所

印刷所 名古屋市昭和区白金一丁目11-10
竹田印刷株式会社